The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	留学生を対象としたキャリアデザイン授業の実践報告：研究科目の一環としての取り組み
Author(s)	立川, 真紀絵
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2021, 19, p. 1-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/79302
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

留学生を対象としたキャリアデザイン授業の実践報告
―研究科目の一環としての取り組み―

A Practical Report on a Career Design Class for International Students:
As Part of a Research Subject

立川　真紀絵

【要旨】

本稿は、2020年春～夏学期に大阪大学日本語日本文化教育センターの留学生向けに開講された研究科目「キャリアデザイン」の実践報告であり、今後の授業改善へとつなげることを目的としている。本授業（全15回）は、「キャリアについて考える」、「自己分析」、「ビジネスコミュニケーション」、「企業分析」、「キャリアデザイン」という５つのテーマから構成され、学習者が日本語を用いてキャリアやビジネス場面に関する様々なタスクに取り組むことを通して、自分自身のキャリアデザインについて理解を深められるようになることを目指した。本稿では、本授業の授業内容について詳述し、その成果と今後の課題について論じる。

１．背景と目的

近年、日本に来る留学生の増加に伴い、留学生の進路は多様化してきている。日本での進学や就職のほかに、日本や日本語と関わりのある進路の幅が広がっている。寅丸他（2019）は、教育機関においては留学生の進学や就職の支援が喫緊の課題となっており、「学習者が自身の将来について自律的、意識的に考え、柔軟に行動できるようになるための『自律的キャリア意識』の育成」（p.89）を行っていく必要があると指摘している。学習者が当事者意識をもって自らのキャリアを構築していくことが重要であり、それを支えるための教育が求められると考えられる。

そこで、そのようなキャリア教育の一環として、大阪大学日本語日本文化教育センター（以下、CJLC）において留学生向けに「キャリアデザイン」（第２章にて詳述）をテーマとした研究科目の授業を計画、実践した。本稿の目的は、その実践の成果と課題について報告し、今後の授業改善につなげることである。

２．先行研究と本稿の位置づけ

キャリアには、働くことに関する「ワークキャリア」のほかに、人生全体に関わる一層広範な「ライフキャリア」があり、Super（1980）は後者の観点から、キャリアを、人生の過程において人が担う役割の組み合わせや連鎖であると定義している。多くの場合、「キャリアデザイン」をテーマとした授業を選択する大学生にとって目下の関心は、大学卒業後の進路にあると考えられるが、近年の社会情勢から、小森他（2020）は「多様な社会文化的背景をもつ日本語使用者が、日本語によって生涯にわたるキャリアを形成し未来を開いていく可能性」（p.1）を考える必要があると指摘している。それをふまえ本稿では、広くライフキャリアの視点を取り入れて、過去から将来にわたる人生全体の中に進路を位置づける形で、包括的にキャリアをとらえる。また、そのようなキャリアを構築していくことをキャリアデザインと考える。

大学などの教育機関に関しては、寅丸他（2018）は、具体的な就職・就労支援としてのいわ

ゆる「キャリア支援」よりも、社会的状況や自分の生き方について考える長期的な視点を有する「キャリア教育」を重視するべきであると述べている。「キャリア教育」に関連する実践には、鈴木（2016）とトンプソン（2017）がある[1)]。鈴木（2016）は自身の将来やキャリアの方向性を定める「キャリア発達に関する心理教育」を取り入れたプログラムを開発している（鈴木のプログラムはこれに「就職活動に関する知識習得」、「就職活動に必要な日本語学習」をあわせた3部構成である）。またトンプソン（2017）は、「雇用」と「食」をテーマとしたグローバル社会の諸問題について考える実践を行っている。トンプソンはこの実践を通して、自己や自分なりの生き方などに対する理解を促している。

そこで本授業は、以上の先行研究をふまえ、長期的な視点で自分の生き方について考える「キャリア教育」に重点を置いた授業を実施した。本稿ではその授業について、担当教員（筆者）が作成した授業記録を中心に、学習者の反応およびワークシートの情報を加えて、実践した活動内容の成果と今後の課題について論じる。

3．本授業の構想と概要

本稿で報告する授業は、CJLCにおいて上級レベルの日本語能力を有する留学生向けに開講した選択科目である。2020年春～夏学期は、日本語日本文化研修留学生プログラムとメイプル・プログラムに属する留学生、計8名がこの授業を履修した。同授業は日本語教育の研究科目であり、日本語能力の向上のためだけの授業ではなく、日本語教育に関する専門的な知識の獲得を目指す科目である。そのため、日本語教育を受ける留学生のサポートについて留学生自身が考えるという観点を取り入れ、授業の目的を以下のように設定した。

Ⅰ．キャリアやビジネス場面について理解を深め、それらに関する自分の考えを説明することができる。
Ⅱ．自分自身のキャリアデザインについて説明することができる。
Ⅲ．留学生や日本語学習者に向けたキャリア教育の在り方について多面的に考えることができる。

本授業において、学習者はキャリアやビジネス場面に関連するさまざまなタスクに取り組みながら、それらについての考えを巡らせ、自分自身のこれまでとこれからのキャリアデザインについて理解を深めていく。さらに、より俯瞰的な立場から、留学生や日本語学習者に向けたキャリア教育の在り方についても考え、その考察を、日本や日本語と関わりのあるキャリアを構築している自分自身や他者へのサポートに役立てられるようになることを目指す。鈴木（2018）によれば、留学生が自身の留学生活を活かす形で自身のキャリアを考えることは必要であるが、そのような実践報告は非常に限られているという。本稿はその不足を補う意義を有すると考えられる。

本授業は全15回で、「①キャリアについて考える」、「②自己分析」、「③ビジネスコミュニケーション」、「④企業分析」、「⑤キャリアデザイン」という5つのテーマから構成される。各回のテーマと主な授業内容は下記の表1に示した通りである。

表１　授業のテーマと授業内容

授業のテーマ	主な授業内容
①キャリアについて考える	1　オリエンテーション、キャリアに関する主要な概念と理論
	2　キャリアに関する主要な概念と理論
②自己分析	3　自己の興味や関心
	4　自己の経験
	5　自己の性格・能力
③ビジネスコミュニケーション	6　日常生活の場面におけるコンフリクトマネジメント
	7　ビジネス場面におけるコンフリクトマネジメント
	8　アサーティブコミュニケーション
④企業分析	9　さまざまな業種
	10　さまざまな職種
	11　さまざまな働き方
⑤キャリアデザイン	12　発表の計画・準備
	13　発表
	14　発表
	15　発表、ふりかえり

上記の授業を演習の形態で実施し、ディスカッションや発表を学習活動の中心に据えた。そうすることにより、多様な背景を有する留学生同士が互いの見解を共有することが可能になり、上述の俯瞰的な見方や多面的な思考の育成が期待できるためである。次章において、各回のテーマを設定した目的や、学習項目・設問などの授業の詳しい内容について論じる。

なお本稿では、授業の履修者８名に対してデータの使用目的を説明し、研究への協力が得られた７名のデータを扱う。

４．本授業の学習内容とその成果

本章ではまず、毎回の授業の流れについて説明し、その次に、授業の内容について述べる。

毎回の授業では、担当教員は授業内容についてのプレゼンテーション用スライド、複数のディスカッショントピック、および学習者が自分の考えや授業で学んだことを書き込むワークシートを用意した。教員がスライドに基づいて説明を行った後で、学習者は２～３名ずつのグループに分かれ、該当するディスカッショントピックについて意見交換をし、授業後に大学のポータルサイト上でワークシートを提出した。次回の授業開始後（授業の冒頭の10分間）、学習者はまずポータルサイトにログインし、前回のワークシートに対する教員のコメントを確認してからオンライン授業に参加した[2)]。

ここからは、授業における５つのテーマ（前掲の表１に示した）ごとに、授業の具体的な学習内容とその成果について論じる[3)]。

①キャリアについて考える（１・２回）

本授業を通して、学習者がキャリアデザインについて理解を深めることを目指すにあたり、まずはキャリアに関する主要な概念や理論を概観することから始めた。そのため、「キャリアについて考える」というテーマを設定した。

初回はまずオリエンテーションを行い、シラバスに沿って授業に関する必要な情報を説明し、その後は「キャリア」の語源や定義をはじめとして、関連する概念と理論について説明をした。「ライフキャリア、ワークキャリア」に含み入れられる自分の経験、「内的キャリア、外的キャリア」のうちいずれを重要視するかなどのディスカッショントピックを立てた。さらに、「ワーク・ライフ・バランス」、ドナルド・E・スーパーの「ライフキャリアレインボー」といった仕事以外のキャリアを意識した内容を取り入れたほか、「子どものころに就きたかった職業、現在興味がある職業」について話し合い、これまでの人生における自分自身の職業観の変化を意識化した。

②自己分析（3～5回）

学習者が自分自身のキャリアをデザインしていくにあたり、自己に対する理解を深めていくことが本授業の主要な目的の一つである。そのため、「自己分析」をテーマとして加えた。

このテーマでは、3回目にエドガー・H・シャインの「自己概念の3要素」と「キャリア・アンカー」、ジョン・L・ホランドの「職業興味に関する6角形モデル」を扱い、自分自身の興味や関心がいかに職業につながり得るかについて考えた。4回目は、留学生にとって自分自身の経験となじみが深いのではないかと考えられる「異文化適応の過程を示したU型曲線とW型曲線」の説明をした上で、そのイメージを広げていき、学習者自身のこれまでの人生全体の曲線を描いて、互いにそれを説明した。また、知り合いに自分の印象を尋ねるという宿題を課し、それをもとに「ジョハリの窓」について考えた。その流れから5回目の自分自身の性格や能力の話題へとつなげた。4回目の授業にてふりかえった具体的な過去の経験と結びつけながら、「自分の長所、短所」、「強み、能力」などについて話し合った。

③ビジネスコミュニケーション（6～8回）

インターンシップ・プログラムについて論じた横須賀（2020）は、今後の大学教育が目指す方向性について、「留学生が将来属したいと思う共同体の知識や技術を学びつつ、多様な他者と協働して、組織に必要な変革を創造的に施していけるような力を育成すること」（p.62）であると述べている。「ビジネスコミュニケーション」というテーマを設定し、それについて学ぶことは、この方向性に沿っていると考えられる。また本授業においては、ビジネス場面における自己や、そこでの他者との関わりについて具体的にイメージすることにより、「②自己分析」から「④企業分析」の学習へとスムーズにつなげることができるのではないかと考えた。

しかし、就業経験の少ない学習者にとって、ビジネス場面のやりとりについてイメージするのは難しいことであると考えられる。そのため6回目の授業では、まずは日常生活の場面におけるコミュニケーションを取り上げた。コンフリクトマネジメントのさまざまな方法について具体的なコンフリクトを例示して説明してから、実際に学習者が体験したコンフリクトについて話してもらい、それらに対する対応方法について話し合った。そして、続く7回目で、場面を切り替えて、ビジネス場面でのコンフリクトを例示し、学習者はそれに対する対応方法、およびその効果や問題について議論した。

8回目は、他者と協働していくために必要なコミュニケーション方法の一つであると考えられる、アサーティブコミュニケーションを取り上げた。具体的にどのような表現を用いればよ

いかについて、日常生活の場面、ビジネス場面の順に考え、クラスで共有した。

④企業分析（9～11回）

企業についての理解を深めることは、社会全体の動きに目を向け、企業と関わっていく中で欠かせないものである。また、前掲の横須賀（2020）が指摘しているように、実際に企業に所属する前の段階から、企業をはじめとして働くことについて詳しく知ることは非常に重要であると考えられる。そのため、「企業分析」をテーマに加えた。

9、10回目の授業はさまざまな業種と職種についての知識を増やすことを目的とした。いくつかの業種を各学習者に割り振り、最終的にグループで話し合って各業種の仕事の内容や社会への貢献の仕方について考えた。職種についても同様にディスカッションを行った。これらの活動は、自分がすでに関心を有しているもの以外の仕事にも目を向けてほしいという意図で実施した。そのほか、自分自身の人生におけるモットーについて話し合い、そこから企業理念の話へと発展させ、興味のある企業の理念について調べることを提案した。

11回目は、事前に家族や知り合いに業種、職種、彼らの仕事の面白みややりがいについて尋ねるという宿題を課し、その結果をクラスで共有した。実際に働く人の考えに触れることにより、各業種、職種について一層具体的にイメージできるようになることを期待した。

⑤キャリアデザイン（12～15回）

「キャリアデザイン」というテーマは、学習者が11回目までの授業で学んだことをふまえ、当事者意識をもって自分自身の将来的なキャリアを構想するという目的で設定した。「キャリアデザイン」は本授業の集大成となる活動であると考えられるため、最後のテーマとしてこれを加えた。

学習者は、一人ずつ10～15分の発表を行った。発表するべき内容は大きく3つの要素に分けられる。すなわち、（1）自分自身のキャリアと関わりが持てそうな（自分のキャリアに組み込みたいと思える）一つの企業について、その基本情報を調べる、（2）その企業と自分自身のキャリアデザインとの関わりについて説明する、（3）同じくその企業に関わろうとする人にとって役立つ情報を提供する、という3要素に分けられる。ただし、以上は大枠であり、実際の発表内容は、12回目の授業で学生同士が互いの関心事について意見交換をし、各自で計画、修正した。自分自身の発表が、ほかのクラスメイトの留学生にとって有益な情報発信となることを目標の一つとして、各自が発表を準備した。

発表は13～15回目に分けて行い、15回目には授業全体のふりかえりも行った。そこでは、それぞれの学習者のキャリアデザインについての発表をふりかえった。また、留学生としての経験を活かし、日本に関係する企業（日本企業、日系企業の海外支社、外国企業の日本支社）で働こうとする人にとって大変なことや、必要な情報・勉強したほうがよいことについて話し合い、留学生に必要なサポートについて議論を深めた。

5．授業実践で見られた今後の課題

本授業実践における教育活動を通して、今後対応していく必要がある課題が明らかになった。

本授業は、日本語教育の研究科目として、学習者が日本や日本語と関わりのあるキャリアを

構築している自分自身や他者へのサポートについて考えることを目指してきた。今後、学習者がこのことをより主体的に実践し、また、当事者として社会に関わっていけるように、自ら問題意識をもつことを促したい。そこで学習者自身が、日本における就業に関する諸問題を見出し、授業内で共有するという活動を加えることを検討したい。具体的には、「①キャリアについて考える」のテーマの授業回を増やしたり、「⑤キャリアデザイン」のテーマにおける発表の内容にこの活動を加えたりすることが考えられる。そのような課題を組み込むことにより、多様な背景を有する留学生の視点が一層授業に現れてくるのではないかと考える。

次に、可能な範囲で、実際に日本企業などで働く他者の存在を授業に組み込むことを検討したい。今回の実践では、毎回、複数のディスカッショントピックを設定して、学習者同士の議論を深めてきたが、よりリアリティのある内容や、イメージしやすい内容を取り入れることにより、一層ディスカッションが深まるのではないかと期待される。今回は、「④企業分析」の11回目において、知人にインタビューをするという課題を設定したが、今後さらにこの点について工夫を施していきたい。

6．まとめ

本稿では、学習者が当事者意識をもって自分自身のキャリアを構築していくことを目指し、「キャリアデザイン」をテーマとした授業を行い、それについて報告した。学習者はこの授業を通して、これまでの人生をふりかえり自己に対する理解を深めるとともに、現時点で考え得る将来的なキャリアについて発表することができた。また、本授業が日本語教育の研究科目であることから、留学生や日本語学習者に向けたキャリア教育についても学習者が多角的に考え、互いにサポートしあえるようになることを目指した。その結果、ディスカッションでは非常に多様な意見があがった。学習者のワークシートにも、このことに関連する肯定的なコメントが見られた（「先生と他の国から来た学生と一緒に将来のキャリアについて考えているのは非常に面白いです。さらに全員の学生の背景、文化、考え方が異なるので、お互いに役に立つことが教えられます[4)]」）。今回の授業において、学習者同士が互いの学びに良い影響を与えたことが伺え、当初の目的が達成されたものと推察できる。

今回は、担当教員が作成した授業記録を中心とした限られたデータから授業の実践と課題について論じたが、今後は、授業内の学習者の意見や反応をさらに収集、分析し、授業の効果や課題についてより詳しい調査を行っていきたい。また渋谷他（2017）によれば、留学生に特化したキャリア教育に関する教材が不足しているという。今後、今回の実践で明らかになった課題をふまえてよりよい授業実践を目指し、授業の改善を行うとともに、将来的な教材開発にもつなげていきたいと考える。

注

1）キャリア教育の実践報告については、中井他（2019）を参考にした。

2）2020年春～夏学期はコロナウイルス流行の影響により、全15回を同期型のオンライン形式で実施した。

3）「①キャリアについて考える（1・2回）」、「②自己分析（3～5回）」に掲載したキャリアについての主要な概念と理論についての説明は、北浦（2019）に詳しい。

4）日本語の文法の誤りは筆者が訂正した。

参考文献

北浦正行（編）大山正嗣・斎藤幸江・田所薫・西本万映子（2019）『キャリアデザインの教科書』労働調査会

小森由里・建石始・野山広（2020）「特集『日本語が拓く多様なキャリア形成』について」『日本語教育』175，pp.1-3

渋谷博子・菅長理恵・中井陽子（2017）「キャリア形成支援に関する基礎調査－留学生のための教材開発に向けて－」『東京外国語大学論集』，94，pp.87-101

鈴木綾乃（2018）「ビジネスにおける『コミュニケーション力』向上を目指したケース学習の実践と課題－「留学生のキャリアデザインB」における試行－」『横浜市立大学論叢人文科学系列』70，2・3，pp.247-268

鈴木華子（2016）「日本語授業を活用した留学生のキャリア支援－文化的統合型キャリア支援プログラムの開発と実践－」『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』31，pp.147-158

寅丸真澄・江森悦子・佐藤正則・重信三和子・松本明香・家根橋伸子（2018）「留学生のキャリア意識とキャリア支援の『ずれ』を考える－日本語学校・短大・大学（首都圏・地方）の留学生の語りから－」『言語文化教育研究』16，pp.240-248

寅丸真澄・家根橋伸子・松本明香・佐藤正則（2019）「留学生のキャリア支援の実態と課題－日本語教師と学習者の意識の『ずれ』に着目して－」『2019年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.86-91

トンプソン美恵子（2017）「長期的なキャリア形成を視野に入れた日本語教育－自己・他者・社会を学ぶ日本語学習の一考察－」『早稲田日本語教育実践研究』5，pp.131-140

中井陽子・菅長理恵・渋谷博子（2019）「先輩留学生の体験談を読む活動における学び－キャリア形成支援をめざした教材作成と授業実践から－」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』45，pp.37-56

横須賀柳子（2020）「外国人留学生のキャリア形成－インターンシップ参加の実態調査と事例から－」『日本語教育』175，pp.50-64

Super, D. E.（1980）. A Life-Span, Life-Space approach to Career Development. Journal of Vocational Behavior. 16, New York, London: Academic Press. pp.282-298.

（たちかわ　まきえ　本センター講師）